

災害対応ピクトグラムが

岡山市内で実装

川崎医療福祉大学

川崎医療福祉大学(岡山県倉敷市)医療福祉マネジメント学部医療福祉デザイン学科では、岡山市消防局(本部・岡山市)と連携して「災害対応ピクトグラム」の共同開発を行っている。開始から3年目を迎えた同プロジェクトはこのほど、新しいピクトグラムを完成させた。

開発した4種のピクトグラム



【指示】
自力で移動できる被災者の誘導

【注意喚起】
薬品などが付着した上着を脱ぎ袋に入れ、ポンチョを着る

【指示】
トリアージタグをつける案内

事前のアンケート調査では「分かりやすい」と好評だった

今回完成したのは、自力で移動できる被災者を誘導する「歩いてこちらへ」、薬品などが付着した上着を脱ぎ袋に入れて着替える「服を袋へ」と「ポンチョを着る」、「負傷の具合などを表すトリアージタグの案内をする「タグをつける」の4種類。過去に開発したピクトグラムを使用した



消防局と打ち合わせを重ねて作品を完成させた

現場での意見や要望などを聞き、消防局の担当者や打ち合わせを重ねて制作した。

デザインが決まってからは、実際の大きさや遠くからでも分かりやすいかなど、防災訓練を行い検証。当初は4種とも背景が青色だったが、より危険性を理解してもらえよう「服を袋へ」と「ポンチョを着る」は黄色に変更するなど、より現場で機能できるように改良を加えた。

すでに岡山市内すべての消防車に「歩いてこちらへ」のパネルが搭載されているほか、現在はバルーン型や小さくためるポップアップサインなどのテストモデル検証も進んでいる。また、近隣のショッピングモールでも導入されるなど広がりを見せており、世間から多くの注目が集まっている。